

びぜんこくぶんじあと
備前国分寺跡

りょうぐうざんこふん
両宮山古墳

しせき 史跡だより

第16号



特集 日本遺産



JAPAN HERITAGE
日本遺産

「桃太郎伝説」の生まれたまち おかやま ～古代吉備の遺産が誘う鬼退治の物語～

赤磐・倉敷・総社そして代表自治体の岡山の4市共同で文化庁に申請した「桃太郎伝説」の生まれたまち おかやま～古代吉備の遺産が誘う鬼退治の物語～のストーリーが、平成30年5月24日に「日本遺産」に認定されました。

日本遺産は、地域の歴史的特色や文化財にまつわるストーリーを国が認定するもので、岡山県内では4件目の認定となりました。

ストーリーの概要

いにしえに吉備と呼ばれた岡山。この地には、鬼(温羅)を退治した吉備津彦命の伝説が語り継がれ、昔話の桃太郎の原型になったとされる。鬼退治伝説は古代吉備の繁栄と屈辱の歴史を背景に生み出されたとされ、伝説の舞台となった吉備の多様な遺産は、今も訪れる人々を神秘的な物語へと誘ってくれる。

赤磐市の構成文化財について

このたび認定されたストーリーは27件の文化財から構成されており、そのうちの「両宮山古墳」と「岡山の桃」の2件が赤磐市の構成文化財です。

両宮山古墳は二重周濠をもち、近畿地方の大王墓にも匹敵する規模を誇ります。造山古墳(岡山市)・作山古墳(総社市)とともに吉備の三大古墳と呼ばれ、古代吉備の繁栄を物語る文化財として評価されています。



きのじょうざん きのじょう
鬼城山(鬼ノ城)(総社市)



たてつきいせき
楯築遺跡(倉敷市)



きびつしんじや
吉備津神社(岡山市)

▲各市の代表的な構成文化財
伝説では、温羅の居城とされる古代山城・鬼ノ城、吉備津彦命の楯となった巨石が立ち並ぶ楯築遺跡、勝利した吉備津彦命を祀る吉備津神社などが舞台として語り継がれている。



りょうぐうざんこふん
両宮山古墳(赤磐市)

パンフレット 最新測量図でみる両宮山古墳



平成30年7～9月に山陽郷土資料館で開催された日本遺産認定記念展で使われた基礎資料を1冊にまとめました。航空レーザ測量による両宮山古墳と周辺古墳の最新の測量図を一挙公開!

* A4判、カラー8ページ

* 山陽郷土資料館窓口にて無料配布中

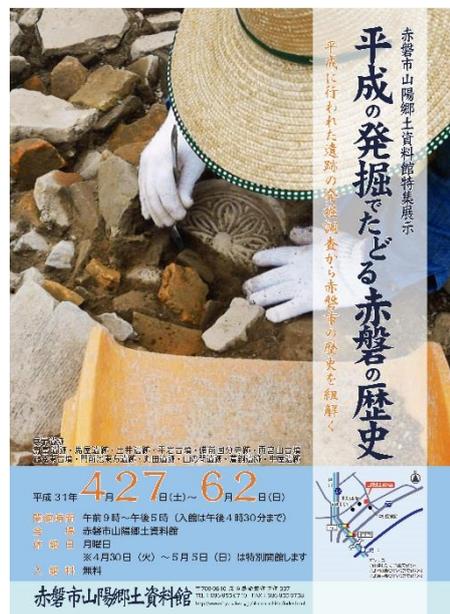
特集展示 平成の発掘でたどる赤磐の歴史 開催のお知らせ

山陽郷土資料館では、平成から「令和」への改元の節目にあわせて、平成の発掘^{はっくつ}を振り返る特集展示を行います。

平成の30年間には、市内で数多くの発掘が行われ、赤磐の歴史を考える上で重要な発見が相次ぎました。また、これまでの「史跡だより」でご紹介してきたように、史跡両宮山古墳・備前国分寺跡でも整備に向けた発掘を行い、新たな知見や貴重な出土品が得られています。

特集展示では、平成の発掘出土品の中でも選りすぐりの品々を展示し、赤磐の歴史を紐解きます。

展示期間中の祝日(4/30～5/5)は特別に開館します。ぜひこの機会に山陽郷土資料館へお越しいただき、赤磐の平成発掘史に触れてみませんか？



期間：平成31年4月27日(土)～6月2日(日) 9:00～17:00 (入館は16:30まで)

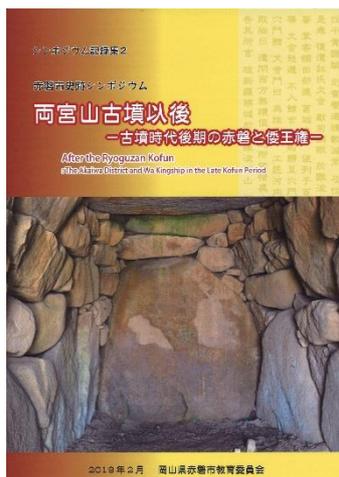
月曜休館 * 特集展示期間中の祝日(4/30～5/5)は特別開館します。

お問い合わせ：赤磐市山陽郷土資料館 Tel.086-955-0710

刊行物案内

シンポジウム記録集2

両宮山古墳以後 -古墳時代後期の赤磐と倭王権-



備前地域最大の古墳・両宮山古墳が築かれた後、赤磐に起きたこととは？

平成29年度に開催された史跡シンポジウムの記録集を刊行しました。

第一線で活躍する研究者らが、古墳の変化や産業の展開を手がかりに、両宮山古墳「以後」の赤磐の歴史を紐解きます。倭王権との関わりや東アジア世界の対外関係もふまえた多角的な視点から、古墳時代後期の赤磐そして日本列島の社会変動にせまる1冊です。

* A5判、巻頭カラー写真、本文140ページ

* 価格：1,300円(山陽郷土資料館窓口にて販売)

お問い合わせ：赤磐市山陽郷土資料館 (Tel.086-955-0710)

赤磐市教育委員会 平成31年4月10日発行

〒709-0816 岡山県赤磐市下市337番地 TEL 086-955-0710

URL <http://www.city.akaiwa.lg.jp/bunkazai/index.html>